



Run&ishin



表紙作品

- 作 者：ほそだ おさむ細田 治 (あいらいふ南原)
- タイトル：無題
- 画 材：鉛筆、ポスカ、マジック
- サ イ ズ：たて27cm×よこ39cm



よこがお

表紙画作者紹介

細田 治さん

毎日資源回収や畑の仕事を頑張っている治さんの作品は、いつもカラフルで愛嬌たっぷりの動物や人物が出てきます。この作品は仕事の移動中に大きな恐竜のオブジェと遭遇したことから始まった恐竜シリーズの一つです。

日頃、ご家族の声かけや支援員のみなさんの行動は、ご本人の気持ちを中心に考えて行われていますか？

今回は、事例を通してご家族のみなさんや職場でもう一度「ご本人の気持ちを中心に考える」ことについて会話をしていただきたいと思います。

事例 01 支援の場面から

就労継続支援B型事業所を利用しているSさん。事業所では、主にパン作りと調理を担当しています。Sさんは、自分の気持ちを上手に伝えられず、急な問いかけにはオウム返しになってしまいます。日頃の出来事をうまく伝えることができないので、お母さんは毎日連絡ノートで確認をします。

ある日、Sさんがとても疲れており、数日続けて作業服が汚れていたことに気が付いたお母さんが、Sさんに尋ねました。Sさんから「草取りやったよ。」の言葉を聞きだしました。



事業所の担当者

本人に聞いたら、草取りに行ってくれると言いました。パンと調理の仕事より長い時間集中して作業に取り組んでくれました。



お母さん

Sは、言われたことをオウム返しに返事するので、「草取りに行く？」と聞かれたら「草取りに行く。」と答えてしまいます。本人の言葉を鵜呑みにした支援はおかしい。Sは、パンの調理が好きで頑張っているんです。



**こんな場面はありませんか。
こんな時、それぞれの立場でどうしたら良いと考えますか。**

ご本人中心になっていきますか？

事例 02 食事の場面から

ある日の昼食に天井を提供しましたが、Mさんは全く手を付けません。

見た目もこだわって盛り付けをしました。お箸では食べづらいと思いスプーンも付けました。エビが大好きと聞いたので、お椀の一番見えるところに置きました。



栄養士

私は、“食事はこうあるべきもの”と理想があります。冷たいものは冷たく、温かいものは温かく提供したい。一日の栄養量があるので、どうしても食べてほしい。それが栄養士の責任と考えます。



支援員

自閉症スペクトラム症のMさん。普段からこだわりが強く、「ご飯は白いもの」と思っています。ご飯の上に何かが乗っていたらそれはご飯ではないと認識します。でも、食事の場面で自分の気持ちは伝えられません。だから食べないです。

**こんな場面はありませんか。
こんな時、それぞれの立場でどうしたら良いと考えますか。**

「ご本人を中心に考える」ことはいかがだったでしょうか。

事例2では、ご飯と天ぷらを別にしてお出ししたところ、一緒に食べてくれました。特性に配慮することは大切です。

ほんの少し見方を変えたら、「そうだったのか」と気が付くことがたくさんあります。

ご本人さんにとって、ご家族や支援員の皆さんが一番の味方です。ご本人が自分の気持ちを伝え、自分で意思決定ができることが一番の幸せなのではないでしょうか。

ふと立ち止まって、もう一度考えるきっかけを作ってください。



わたしのチャレンジ

いろいろなことに
チャレンジしている
利用者さんをご紹介します！

おおぜい せいかつ むずか めい ぐるーぷ ほーむ せいかつ やなぎさわとしのぶ
大勢での生活が難しいので、3名のみなさんとグループホームで生活している柳澤敏信
さん (34歳) のチャレンジを紹介します。敏信さんは、重度障がい者包括支援を受けて
います。言葉で表現ができないため行動で意思を示します。

ある どうらいぶ だいす としのぶ
歩くことやドライブが大好きな敏信さん。
でも、あた ばしょ し ばしょ い くるま お にごて
新しい場所や知らない場所に行き、車から降りることが苦手です。
ことば ひょうげん こうどう いし しめ
昨年、足の指を骨折するけがをしてみました。

チャレンジ!

あた ばしょ びょういん つういん ちゃれんじ 新しい場所、病院への通院にチャレンジ!

びょういん にごて としのぶ すたっふ おうえん う
ただでさえ病院が苦手な敏信さん。たくさんのスタッフの応援を受けて
びょういん む つういん ふあん くつう じかん
病院へ向かいます。通院は不安で、苦痛な時間でした。

まずは…

くるま お くるまい すいどう
車から降りて車椅子移動です。
すたっふ めい つ そ としのぶ しんぱい としのぶ
スタッフ2名で付き添い、敏信さんのことを心配していること、敏信さんのこと
たいせつ おも つた つづ すたっふ ねが つう くるまい す
を大切に思っていることを伝え続けました。スタッフの願いが通じて、車椅子に
の 乗れました。

つぎ次は…

れんとげん さつえい
レントゲン撮影しなければ…
つぎ びょういん すたっふ おうえん
次は、病院のスタッフさんから応援をもらいました。
きょうかん はげ ことば つづ
共感と励ましの言葉が続きます。
なんど れんとげん さつえい かんりよう
何度もレントゲン撮影完了!



つぎ次に…

さつえい
CT撮影もしなければ…
すたっふ めい つ そ ある こえ
スタッフ2名が付き添い、「がんばったらまた歩けますよ。」のお声かけ。
さつえい かんりよう
CT撮影完了!

すたっふ しんぱい きも たいせつ おも きも つた としのぶ じ
スタッフの心配する気持ち、大切に思う気持ちが伝わり、敏信さんの自
しん につな たりました。敏信さんにとって通院した3カ月は、毎日がチャレ
んじ ンジでした。

でも 支援員が寄り添うことで “一人じゃない。人に頼っていいんだ。”
と 感じる ことができ、前に進むことができました。



あたらし ばしよ さんぼ ちやれんじ
新しい場所で散歩することにチャレンジ!

ころな えいきょう としのぶ さんぼ ばしよ
コロナの影響もあり、敏信さんが散歩する場所の
へんこう じょうきょう
変更をしなければならぬ状況になりました。

つぎ
そこでも、通院のチャレンジで得た自信が、次の
ちやれんじ えねるぎー なした
チャレンジへのエネルギーになりました。慣れ親し
んだスタッフが同行し、何度も励ましの言葉をかけ
ます。スタッフの想いが伝わり、以前は1か所だっ
た活動場所が現在は3か所になりました。
あたらし ばしよ で あ せいこう
新しい場所との出会い、成功です!



きも えがお
「気持ちいい!」の笑顔



まいつき きせい たの すたっふ むか き こえか
毎月ある帰省を楽しみにしていて、スタッフの「お迎えが来ましたよ。」の声掛けに、
と あ としのぶ
飛び上がる敏信さん。

だいす とう かあ で きせい もくひょう あたらし ちやれんじ
大好きなお父さん、お母さんと出かけられる帰省を目標に、新しいことにチャレンジ
しています。

かぞく
ご家族より

とし かえ とき だいす ちーず ぶらんす ぱん ようい
敏が帰った時は、大好きなチーズフランスパンを用意しています。

いっしょ どりいぶ さんぼ いっしょ す
一緒にドライブしたり、散歩したり一緒に過ごします。

げんき いちばん おも なお つういん がんば
元気が一番だと思います。けがを治すための通院、頑張ったね。



駒ヶ根市の「理容ナカツ」は、 利用者も支援者も安心して利用できるお店です。

理容ナカツは駒ヶ根市にある理容室です。「長野県西駒郷」の近くでお店をオープンしたことが縁となり、入所者の髪を切る機会が増えたことで西駒郷とのつながりが出来ました。

西駒郷からグループホームへ移行した利用者も、理容ナカツとのお付き合いは変わらず続いています。

そんなお付き合いがずっと続いている理由について、お話をうかがいました。

初代
中津源一さん

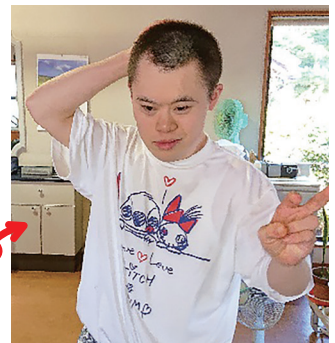
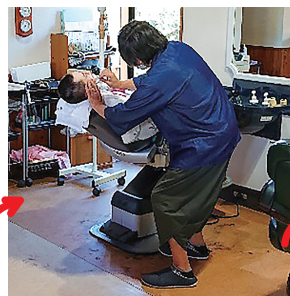
初めて西駒郷の利用者さんがお店に来た日のことは、正直、あまり覚えていません。大変だったことはなかったような気がします。

2代目
中津謙さん

急に暴れだす利用者の方もいらっしゃいますが、長年の自分の経験で利用者さんと関わっています。

付き添いに来られる方に「よそでは暴れるのに、ここに来ると落ち着いている」とよく言われるのですが、どうしてなのかよくわかりません。

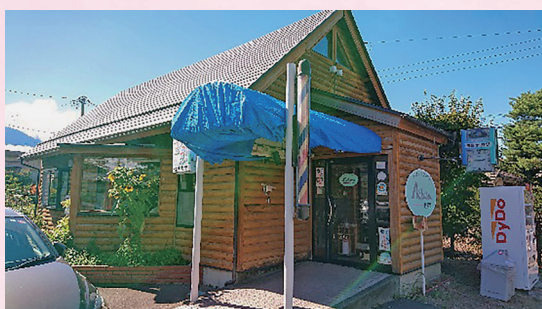
自分では“動いたら刃物の取り扱いに気を付ける”など、他のお客さんと同じようにしているだけで、特に工夫をしているわけではないんです。



＼他のお客さんと同じように、カットが進みます／

源一さん、謙さんのお話をうかがうと、西駒郷の利用者さんとフラットな気持ちで関わっている姿が見受けられました。

西駒郷の利用者さんにとっては、そんなお二人の雰囲気が安心できる秘訣なんだと感じました。



理容ナカツ

【営業時間】 9:00~19:00

【住所】 駒ヶ根市下平2934-196

【TEL】 0265-83-1484

【定休日】 毎週月曜日、第1・3火曜日(完全予約制)

長野県知的障がい福祉協会会長 宮下 智（明星学園）

【心とは裏腹な身体 その②】

適切な支援を進めるためには、まずは、「心」と「身体」が必ずしも素直に連動しているわけではなく、時には、特に行動障がい呈する方々にとっては、裏腹に動いてしまう厄介なものだということを、支援職員が理解する必要があります。

そして、いつも「心」と「身体」は常に素直に連動しているのか？定型発達と呼ばれている方々にとっても、決してそうではないことを身近なできごとを通して実感する必要があります。

例えば、こんな場面を想像してみましょう。

あなたにとって、もう何もかもがイヤになってしまった日があるとします。でも、その原因は、なかなか他人には話すことができない、あるいはわかってもらえそうもないところにあります。そんな時、親友がそんなあなたの異変に気がついて訪ねてきてくれました。親友は、親身になって話を聞いてくれようとしています。「どんなことでも話を聞くよ」と。

しかし、すでに自分のことはいっぱい、いっぱいあなたは、思わず「どうせわかってもらえない」と衝動的に「もう帰って」と叫んでしまいます。

こんな時、あなたの気持ちは「もう帰って」の気持ちで100%満たされているかというと、決してそうではないでしょう。

人の気持ちは、いつでも一つの気持ちで満たされているということではないですから、ここでは2つの気持ちが存在するとして考えを進めていきます。

あなたの心の中には、「もう帰ってほしい」という気持ちと「まだそばにいてほしい」の相反する気持ちがあるとします。誰でも、こんな時は「もう一人にしてほしい」気持ちと「まだそばにいて助けてほしい」気持ちが必ず混在しています。そして「まだそばにいてほしい」の気持ちが心全体の51%、「もう帰ってほしい」が49%を占めているとしましょう。

ここは51対49のギリギリの葛藤状態なのに、選ばれる行動は一つだけです。あなたの行動は思わず49%の「もう帰って！」になってしまったとします。このいわゆるあまのじゃくの心理状態（本当は助けてって伝えたいのに、一人にさせてと

言ってしまう気持ち）はなぜ生じているのでしょうか？

「本当は助けてほしい」と思っている、「どうせ自分は嫌われている」「助けてもらうのには値しない人間だ」と思っている人は、おそらく「助けて」とは言えません。また、「助けてほしい」と精一杯の本音を漏らした時に「それは無理だ」というネガティブな返事が返ってくる不安が生じる人もおそらく「助けて」とは言えません。自分が傷つかないようにするために「もう一人にさせて」と先に伝えた方が、自分が傷つくことを防ぐことができます。

では、このような心の状態は、定型発達の方々の中だけで生じていて、知的障がいのある行動障がいを呈する方々の心の中には生じないのでしょうか？

隠れた51%の「助けてほしい気持ち」は行動化されませんから、本当の気持ちは「見えない」ということになり、心の奥に沈殿していきます。行動化された49%の「一人にさせて」の気持ちは、誰からも明らかに「見える」わけですから、誰もがこの行動化された気持ちこそが本当の気持ちだと勘違いしていきます。

前回の【心とは裏腹な身体～その1～】で伝えたAさんの「かえれ～」が実は「いてほしい」だとしたら、「きらい」が実は全く反対の「好き」だとしたら、支援方法は全く違うものになっていきます。

私たちは、「かえれ～」には、「いっしょに美味しいパフェでも作って食べよう」とAさんのそばに居続けることを提案します。

そして「きらい」には、直球勝負で「好き」と伝えながら、「パフェづくり楽しみにしているよ」「きっと楽しくなるよ」「ちっとも迷惑じゃないよ」とポジティブメッセージを注ぎ込み続けます。

見えなく隠れてしまった本当の気持ちは心の奥に沈殿していきながら、しょぼんと一人ぼっちになっていきます。そんなしぼんでしまった本当の気持ちを元気づけるためには、多くのポジティブメッセージが必要です。私たちはそれをポジティブメッセージシャワーと称しています。そして、この「大好き」を伝え合う支援こそが、行動変容を生じさせるのです。【つづく】

障がいのある・ないに関わらず、私たちのコミュニケーションツールの一つに言語的コミュニケーションがあります。しかし、相手に言葉だけではうまく伝わらないことってありませんか? 伝わらない場合、態度や表情、色々な行動で伝えようとしてます。福祉現場で働く私たちの日常で、発信された言葉の本当の意味を知った時に感動することってありませんか? その感動の一コマをお伝えします。

上手に自分の言葉で気持ちを伝えられないAさん。長い時間をかけて、私たちに自分が実現したいことを伝えてくれました。

Aさんは語彙が少ないために、知っている言葉を使って一生懸命伝えようとしてますが、うまく周りに伝わりません。

そんな中、長い時間をかけて自分が実現したいことを職員に伝えてくれた一コマです。

Start!

週末の勤務職員を頻繁に確認するAさん。

職員「週末にしたいことがあるのかな…?」



Hop!

「ドライブに行きたい」を言葉で伝えられたAさん。

職員「どこか行きたいところがあるのかな…?」



Step!

「駅に行きたい」を伝えられたAさん。

職員「なぜ駅なのかな? 駅でしたいことがあるのかな…?」



Jump!

「〇〇駅に行きたい」がやっと伝えられたAさん。

職員「どうして〇〇駅なのかな…?」

ドライブの帰り道で「この駅で配布しているポケット時刻表が欲しい」がやっと言葉になったAさん。

Aさんが
実現したかったこと

「〇〇駅のポケット時刻表が欲しい」



実現したかったことを理解することが、Aさんの幸せにつながっています。今回のように、これからもAさんの言葉を聞き逃さず、ひとつひとつ立ち止まって考えることで、Aさんの幸せを考えていきたいと思えます。

長野県知的障がい福祉協会・長野県社会福祉施設利用者互助会からのお知らせ

広報誌「RUN&らんらん」の表紙画の選考結果について

この度は、多くのご応募をいただきありがとうございました。
広報委員会による選考の結果、下記のとおり決定しましたので、お知らせいたします。

令和5年：秋号表紙画	あいらいふ南原	細田 治 様	「無題」
令和5年：冬号表紙画	第2この街学園	山崎 和夫 様	「富士山」
令和6年：春号表紙画	たてしなホーム	鈴木 謙 様	「花」
令和6年：夏号表紙画	浅間学園	土屋 純枝 様	「彩り赤魚」

ピカッソメダル～らんらん表紙画コンクール参加賞～

3年連続ご応募いただいた明星・第二明星学園、長野県西駒郷、緑の牧場学園、軽井沢治育園へは、ピカッソメダル～らんらん表紙画コンクール参加賞～として3,000円の商品券を贈呈いたしました。

発行者 長野県知的障がい福祉協会 広報委員会

〒380-0936 長野市大字中御所字岡田98-1

Tel:026-225-0704 Fax:026-225-0714

URL:http://id-nagano.or.jp/

長野保健福祉事務所庁舎内

E-mail:na-chifuku@deluxe.ocn.ne.jp

発行日 令和5年9月20日 印刷所 たけい印刷

広報誌「RUN&らんらん」は長野県知的障がい福祉協会のホームページからも閲覧できます。

